

インターバンクの声（2016 年 11 月 1 日）

米連邦捜査局 (FBI) が、米大統領選の民主党クリントン候補が国務長官を務めていた時の私用メール問題について再捜査を始めるとの報道を受け、週末のニューヨーク市場ではドルが対円で大きく下落した。週明けの東京市場では、ドルが引き続き売られるのではとの懸念を抱いたままのオープンとなったが、FBI の再捜査開始はトランプ陣営による陰謀説や投機筋が仕掛けた罠などの噂も出ていた中で、持ち高調整が中心と思われるようなドルの買い戻しに、夕方には 105 円近くまで戻した。この FBI の再捜査開始の報道前までは、来週の大統領選の勝敗はほぼ決着したとも思われていたが、トランプ候補がクリントン候補に支持率の差がほとんどないところまで追い上げているらしい。過去の大統領選からも、支持率の差が 3-4 ポイント以内であれば、どちらが勝ってもおかしくない展開のようだ。ただ、クリントン候補の楽勝ムードも消えただけに、選挙当日に投票しなくてもクリントン候補が勝つだろうと棄権しそうだった人も投票に向かうことも考えられ、意外にクリントン候補の票が増える可能性もある。いずれにしても金融市場では、改めて政治リスクを考慮しなければならず、大統領選前に単純にリスクを取ることが難しくなった。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。